

室内環境を捉えるために

川崎 たまみ

(財)鉄道総合技術研究所 環境工学研究部 生物工学研究室
185-8540 東京都国分寺市光町2-8-38

本年度より本学会事業委員会等の活動に参加させていただいております川崎と申します。現在は、鉄道施設内の衛生環境に関する業務を担当しております。まだまだ知識不足の私ですが、もしどこかでお会いする機会がありましたら、どうぞ気軽にお声をかけていただければ幸いです。

現在、我々のグループでは、鉄道施設内の空気質の評価手法、とりわけカビ由来のにおい評価手法の構築に取り組んでいます。これまでに鉄道利用者に対する意識調査の結果から「駅の空気環境・においに対し関心がある」という回答を得ており、中でも嫌なにおいの例の一つとして「カビ臭」があがっています。そこで、真菌が放出する揮発性物質(mVOC)に注目しています。

研究を進める上では、基本的に分析機器を使った分析が主体です。しかし機器分析以外にも、鉄道利用者を対象とした室内環境に関する「アンケート調査」も行ってデータを得ることがあります。実はこのアンケート調査の準備にかなりの時間を費やしています。別の言い方をすれば、アンケート調査に非常に気がつかっています。主な理由に以下の点があります。アンケートにご回答頂く「モニター」さんには、直接駅にお越し頂き、駅構内を評価して頂くわけですが、もちろん、それに伴い駅と駅との移動が生じます。しかも、通常通り列車が走行する時間帯にこれらのアンケート調査も実施することになります。ですから、当たり前のことではありますが調査を企画・実施する側としては、くれぐれも事故が生じないような安全に配慮した体制を考え、万が一トラブルが発生した際の具体的な対策もきちっと事前

に考えておく必要があります。

また困ったことに私自身アンケート調査に関する知識が全くありませんでした。これまでは単に「アンケートの質問には回答用の選択肢があればよい」程度に思っていたのですが、実際には選択肢の用意の仕方にも様々な工夫が反映されていることを学びました。幸いにも現在は、当研究所内のアンケート調査の経験豊富な研究室や、建築が専門の研究室と協力しながら全体の研究を進めています。そのためアンケート調査のど素人の私の素朴な疑問に対しても、的確な回答をいただきながら進めることができいております。

このように非常に気を使う地道なアンケート調査ではありますが、得られた回答・ご意見と、同時に測定した空中浮遊真菌量等との関係を示すグラフを作成し、これまでには見られなかった知見が得られた時は、それはそれは報われた！ 嬉しい気分になります。

また、こういった測定や調査が、週末に実施されることもあり、普段ですら十分母との時間がとれないことに不満(もないかもしれませんが…)のある息子(2歳)と、夫に理解・協力してもらうことにも感謝をしています。

多くの方々の支えの基に1つのデータを得ていることを肝に銘じながら、微力ではありますが、少しでも公共性の高い鉄道施設の室内環境がよりよくなるよう努力していきたいと考えております。